

売買損益計算の構造的理解 (1)

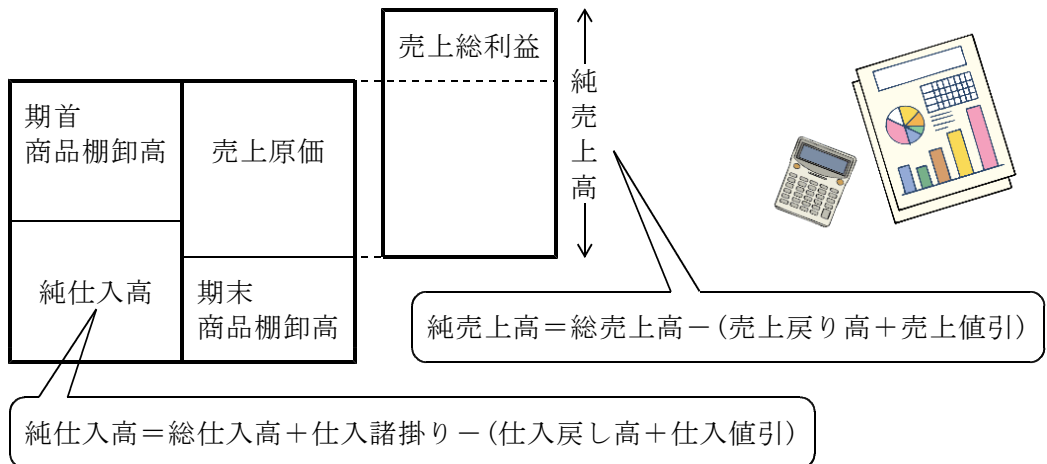
～工業簿記への準備体操～

1 売上総利益の算出

売上総利益＝売上高－売上原価

売上原価＝期首商品棚卸高＋当期商品仕入高－期末商品棚卸高

の意味を考える



<練習問題>

第1問 次の()に適当な金額を記入しなさい。

	商品棚卸高		仕入高	売上高	売上原価	売上総利益
	期首	期末				
1	30,000	40,000	470,000	575,000	()	()
2	45,000	()	520,000	()	510,000	170,000
3	33,000	45,000	()	896,000	()	138,000

第2問 次の()に適当な金額を記入しなさい。

	商品棚卸高		総仕入高	総売上高	仕入戻し高	売上戻り高	売上原価	売上総利益
	期首	期末						
1	12,000	()	74,000	90,000	3,000	()	73,000	12,000
2	()	11,000	68,000	()	1,000	1,200	66,000	19,000

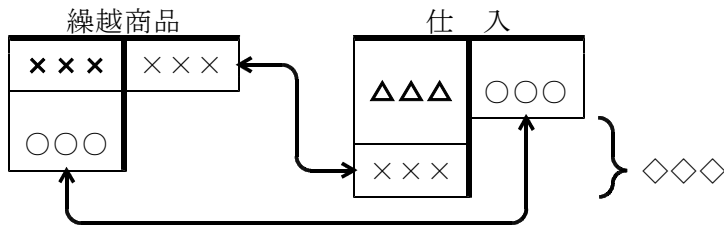
売買損益計算の構造的理解 (2)

2 決算整理仕訳における売上原価の計算

繰越商品勘定残高 ×××
仕入勘定残高 △△△
期末商品棚卸高 ○○○

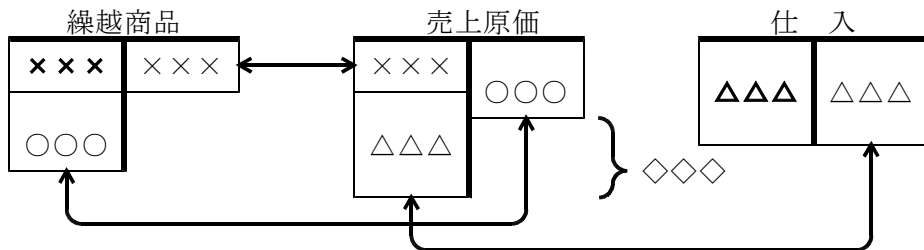
(1) 売上原価は、仕入勘定で計算する。

(仕 入) ××× (繰越商品) ×××
(繰越商品) ○○○ (仕 入) ○○○



(2) 売上原価は、売上原価勘定で計算する。

(売上原価) ××× (繰越商品) ×××
(売上原価) △△△ (仕 入) △△△
(繰越商品) ○○○ (売上原価) ○○○



3 決算振替仕訳における費用勘定の損益勘定への振替え

(1) 売上原価は、仕入勘定で計算されている。

(損 益) ◇◇◇ (仕 入) ◇◇◇

(2) 売上原価は、売上原価勘定で計算されている。

(損 益) ◇◇◇ (売上原価) ◇◇◇

3 決算振替仕訳における収益勘定の損益勘定への振替え

(売 上) ◆◆◆ (損 益) ◆◆◆

売買損益計算の構造的理解 (3)

<練習問題>

第3問 次の資料に基づいて、解答用紙に示した各勘定について、() 内に必要な記入を行いなさい。なお、売上原価は仕入勘定で計算する。また、当期中の仕入、仕入値引、売上および売上戻りは、全部一括して記帳する。

資 料

1. 期首商品棚卸高 ￥ 150,000
2. 総 仕 入 高 ￥ 2,400,000
3. 仕 入 値 引 高 ￥ 80,000
4. 総 売 上 高 ￥ 3,000,000
5. 売 上 戻 り 高 ￥ 50,000
6. 期末商品棚卸高 ￥ 180,000

仕		入	
総 仕 入 高	()	仕 入 値 引 高	()
12/31	()	12/31	()
	()	"	()
	()		()

売		上	
売 上 戻 り 高	()	総 売 上 高	()
12/31	()		()
	()		()

繰 越 商 品			
1/1 前 期 繰 越	()	12/31	()
12/31	()	"	()
	()		()
1/1 前 期 繰 越	()		

損		益	
12/31	()	12/31	()

売買損益計算の構造的理解 (4)

< 解 答 >

第 1 問

	商 品 棚 卸 高		仕 入 高	売 上 高	売上原価	売上総利益
	期 首	期 末				
1	30,000	40,000	470,000	575,000	(460,000)	(115,000)
2	45,000	(55,000)	520,000	(680,000)	510,000	170,000
3	33,000	45,000	(770,000)	896,000	(758,000)	138,000

第 2 問

	商 品 棚 卸 高		総仕入高	総売上高	仕入戻し高	売上戻り高	売上原価	売上総利益
	期 首	期 末						
1	12,000	(10,000)	74,000	90,000	3,000	(5,000)	73,000	12,000
2	(10,000)	11,000	68,000	(86,200)	1,000	1,200	66,000	19,000

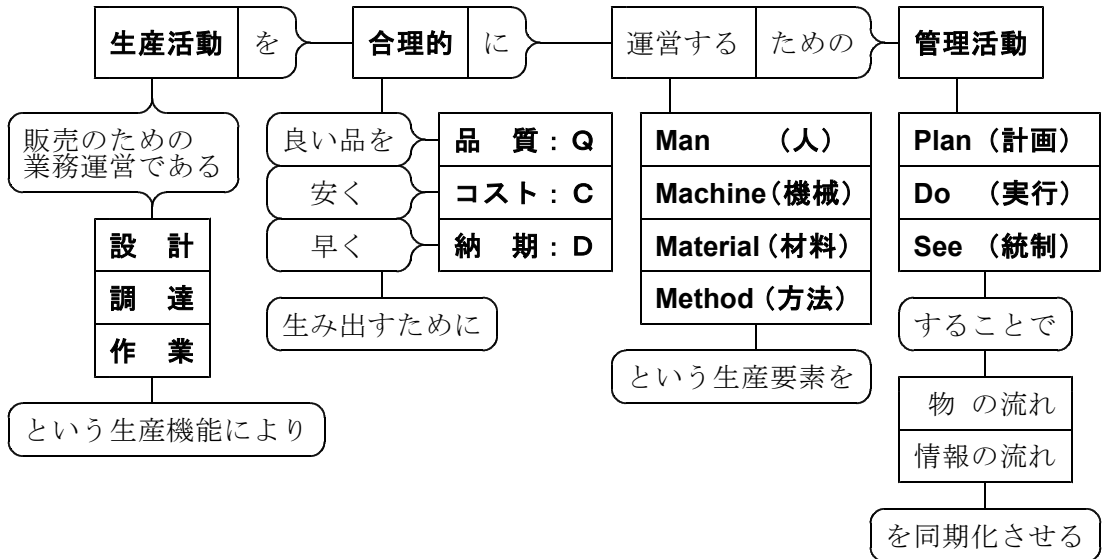
第 3 問

仕 入							
総 仕 入 高		(2,400,000)		仕 入 値 引 高		(80,000)	
12/31	(繰 越 商 品)	(150,000)		12/31	(繰 越 商 品)	(180,000)	
				"	(損 益)	(2,290,000)	
		(2,550,000)				(2,550,000)	
売 上							
売 上 戻 り 高		(50,000)		総 売 上 高		(3,000,000)	
12/31	(損 益)	(2,950,000)				(3,000,000)	
		(3,000,000)					
繰 越 商 品							
1/1	前 期 繰 越	(150,000)		12/31	(仕 入)	(150,000)	
12/31	(仕 入)	(180,000)		"	(次 期 繰 越)	(180,000)	
		(330,000)				(330,000)	
1/1	前 期 繰 越	(180,000)					
損 益							
12/31	(仕 入)	(2,290,000)		12/31	(売 上)	(2,950,000)	

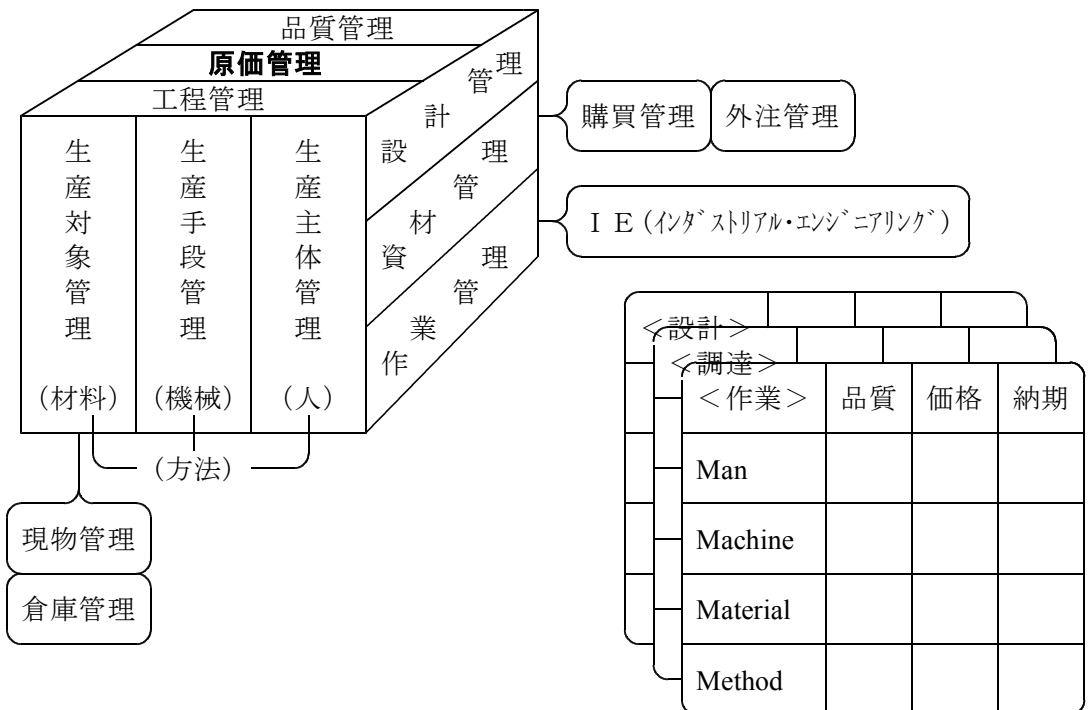
生産管理と原価計算 (1)

1 生産管理概論

(1) 生産管理とは

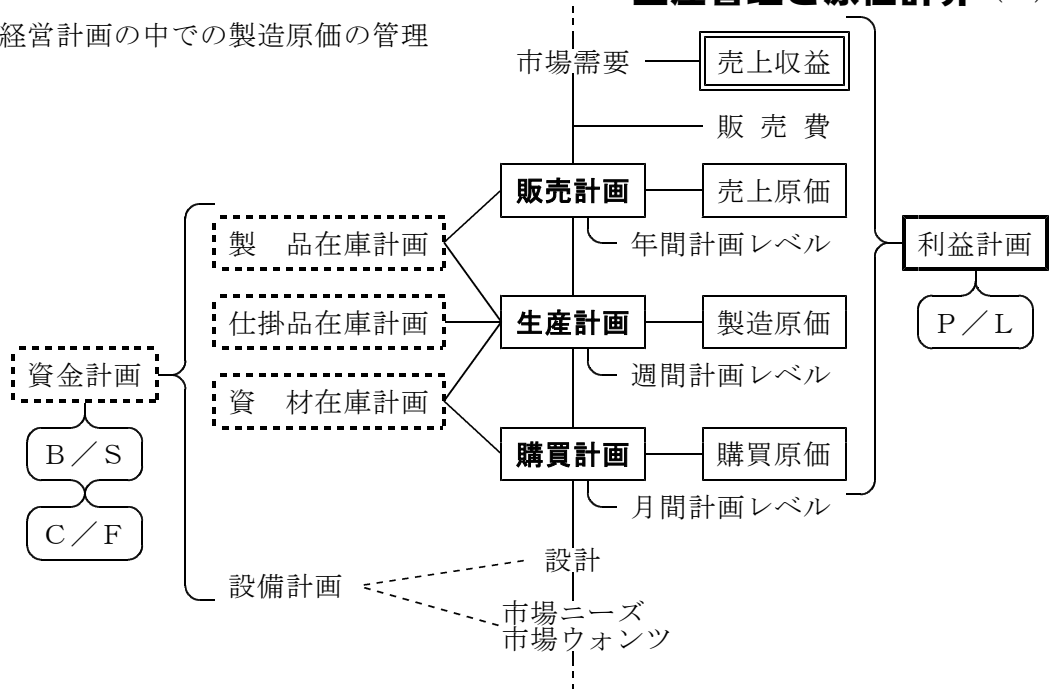


(2) 生産管理の体系

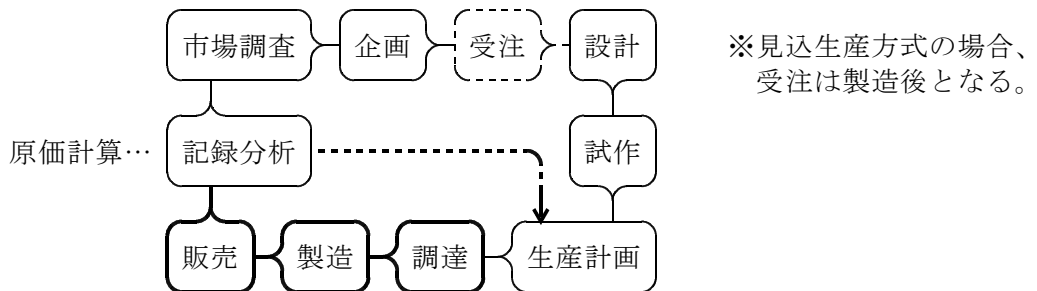


生産管理と原価計算 (2)

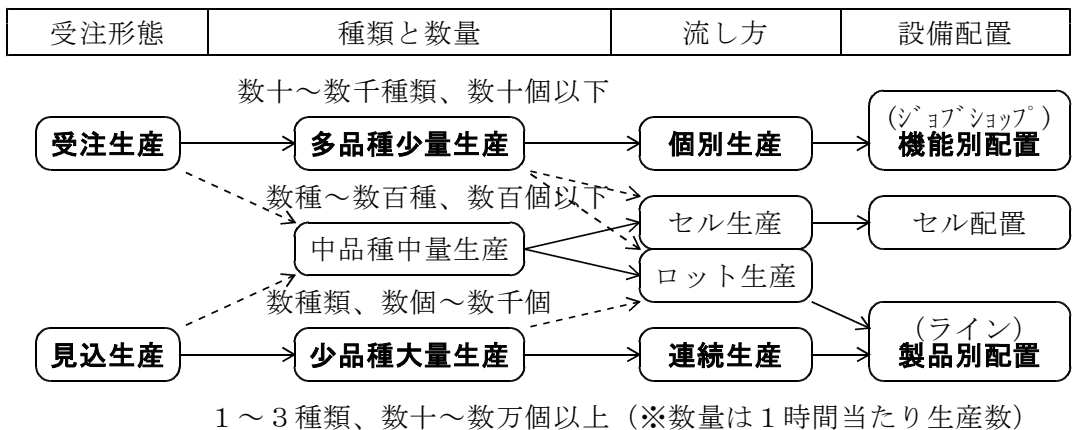
(3) 経営計画の中での製造原価の管理



(4) 生産サイクルと原価計算の位置づけ



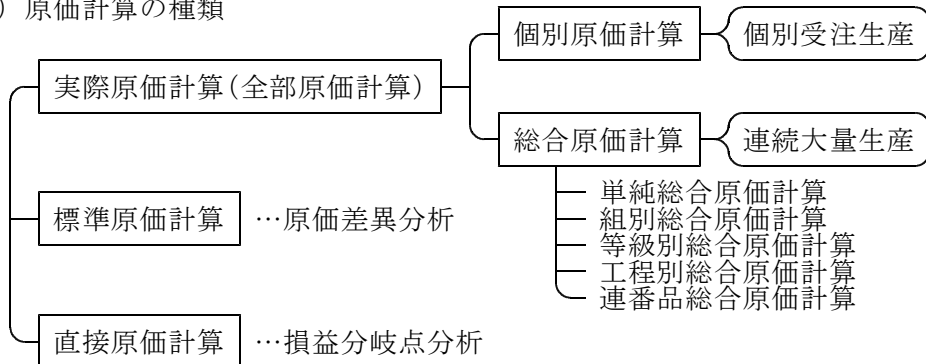
(5) 生産形態



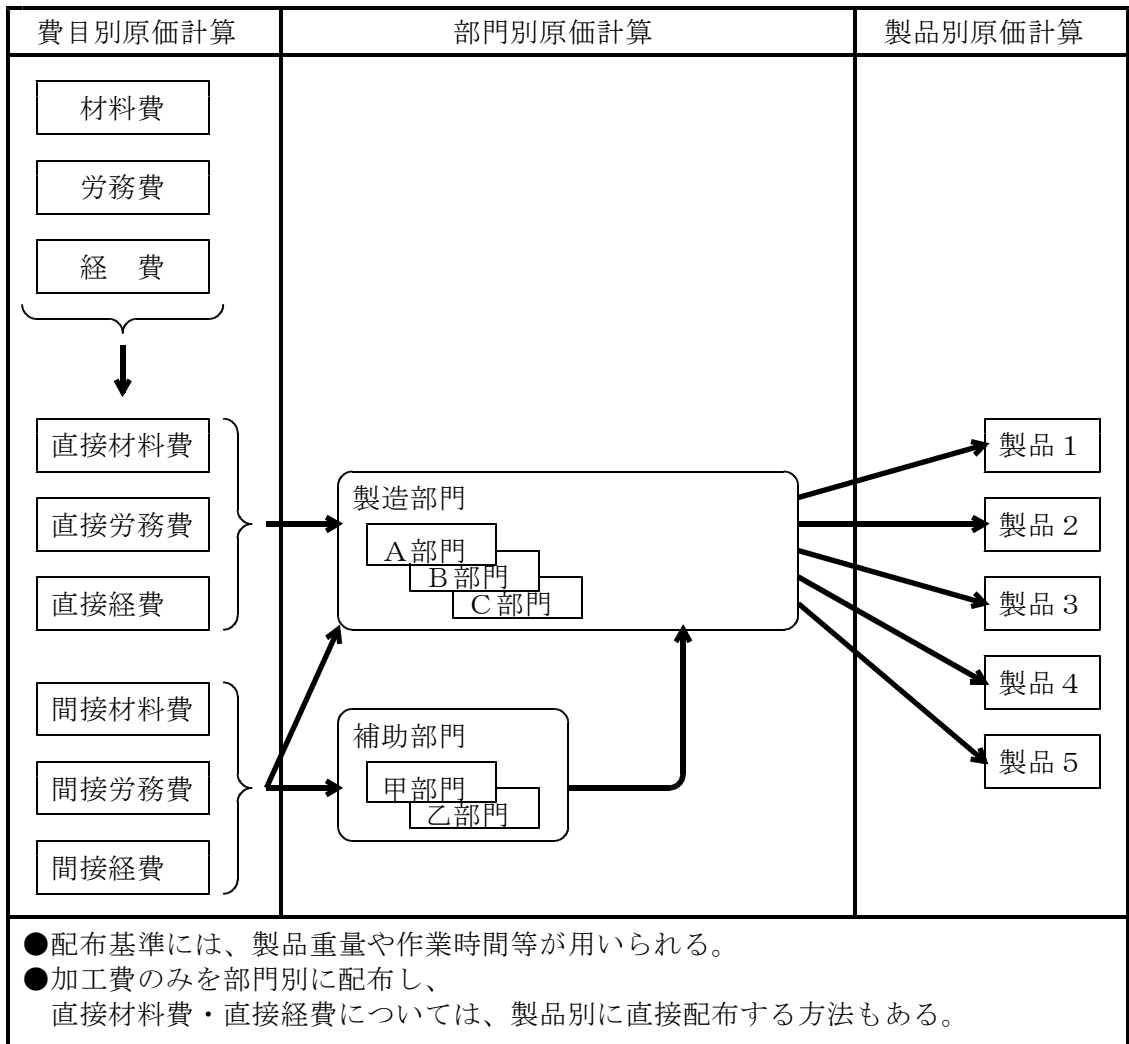
生産管理と原価計算（３）

２ 原価計算の種類と流れ

（１）原価計算の種類

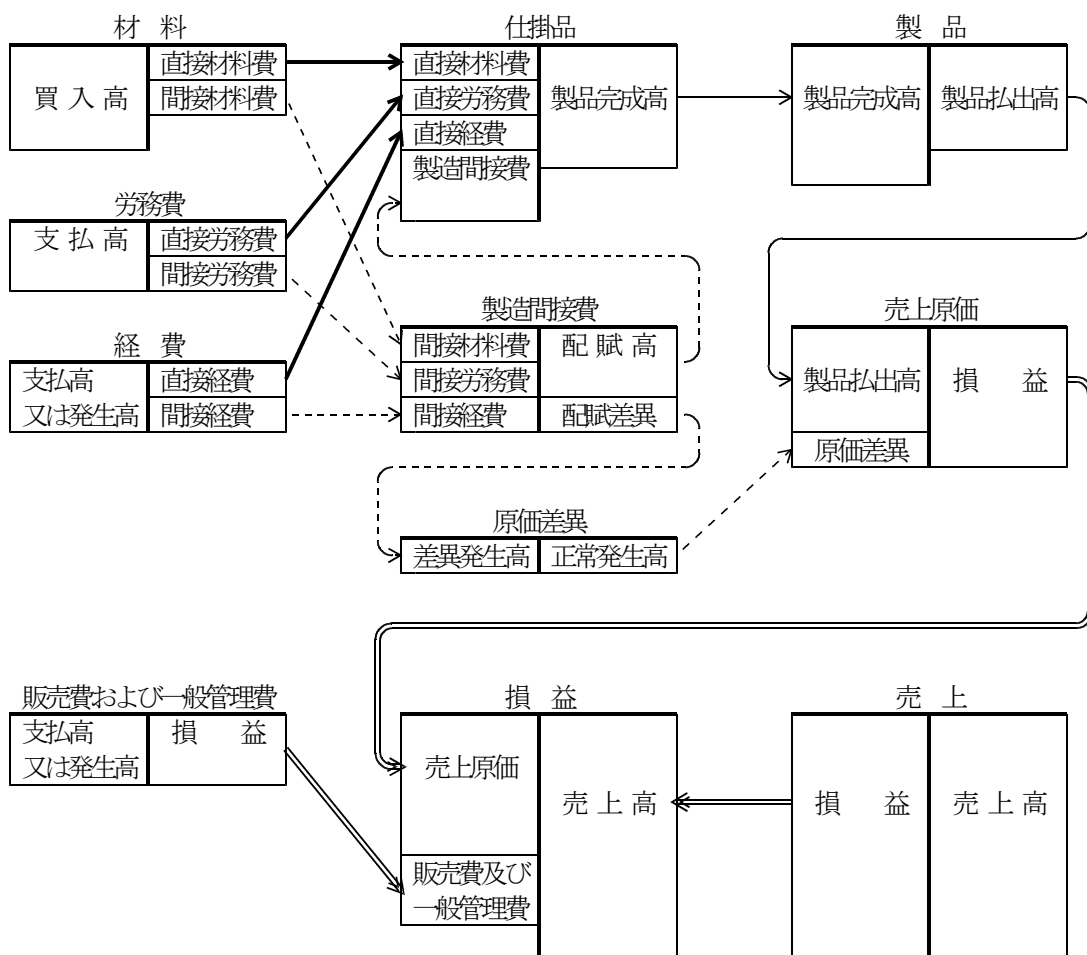


（２）実際原価計算の流れ



工業簿記の基本 (1)

1 勘定連携図 (一例)



工業簿記の基本 (2)

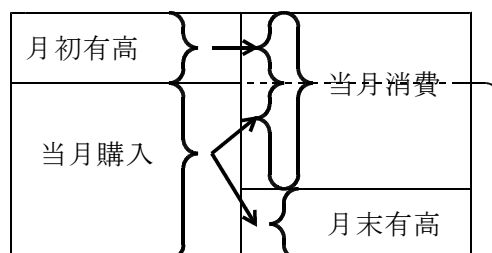
2 ボックス図の作成 … (材料) 仕掛品「製品」

(1) 材 料

①平均法

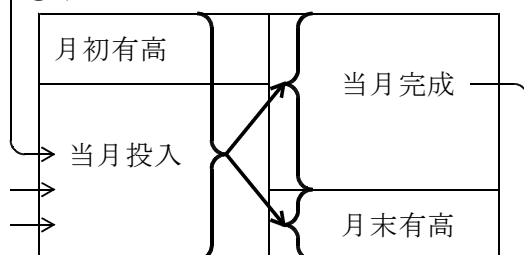


②先入先出法

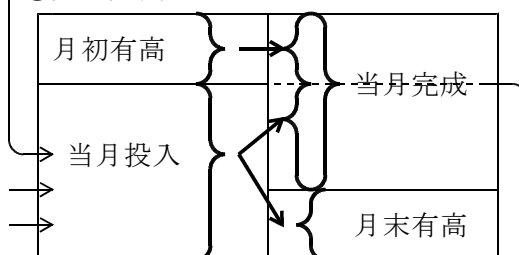


(2) 仕掛品

①平均法

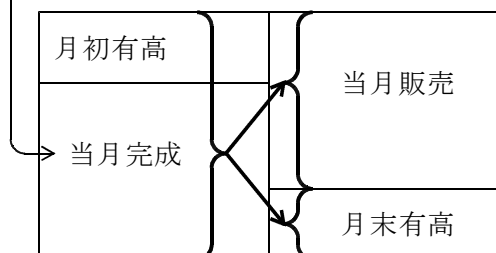


②先入先出法

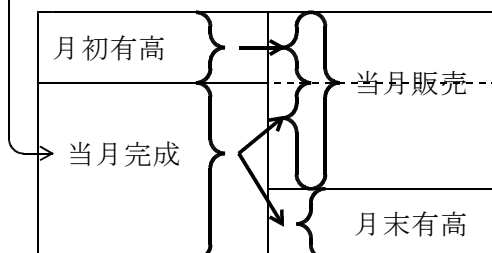


(3) 製 品

①平均法



②先入先出法



※原価計算では、仕掛品のボックス図を多用するが、材料や製品のボックス図も使用するので、注意する。

費目別原価計算

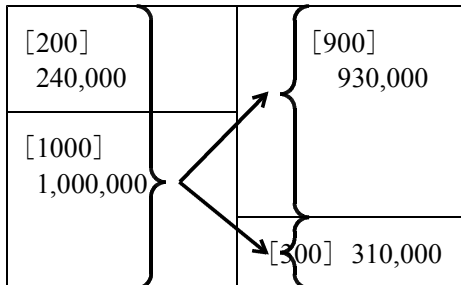
1 材料費

材料費＝消費単価×消費数量

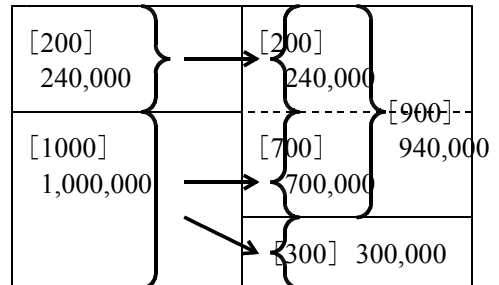
●当月原価（当月消費高）の計算

材 料	月初有高	当月購入	月末有高
	200	1,000	300
	@¥1,200	@¥1,000	

①平均法



②先入先出法



2 労務費

労務費＝賃率×作業時間

※直接労務費は、直接工の直接作業時間についてのみ参入する。

●当月原価（当月消費高）の計算

賃金・給料	前月末払高	当月支払高	当月未払高
	11,000	100,000	12,500



$$\begin{aligned}\text{当月原価} &= \text{当月支払高} - \text{前月末払高} + \text{当月未払高} \\ &= 100,000 - 11,000 + 12,500\end{aligned}$$

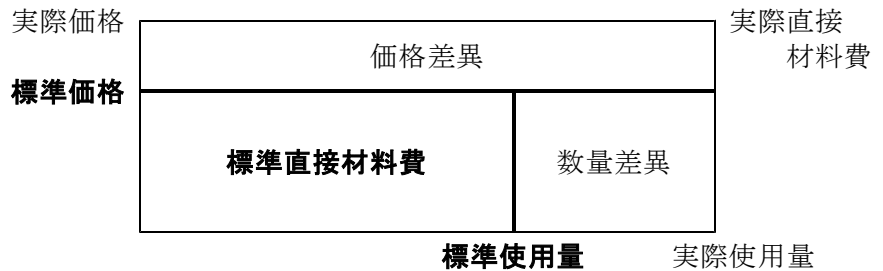
3 年間予定額の配賦（労務費、製造間接費）

- ・ 当月実際直接作業時間 2,400 時間
- ・ 年間支払予定額 108,000,000 円
- ・ 予定直接作業時間（年間） 36,000 時間

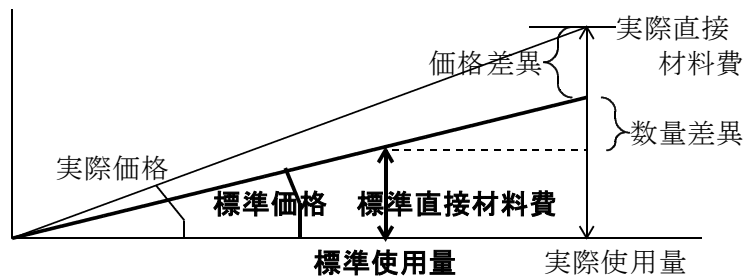
	作業時間	支払予定額	
当月	2,400 時間	?	$= 108,000,000 \times \frac{2,400}{36,000}$
年間	36,000 時間	108,000,000 円	

原価差異分析の研究（１）

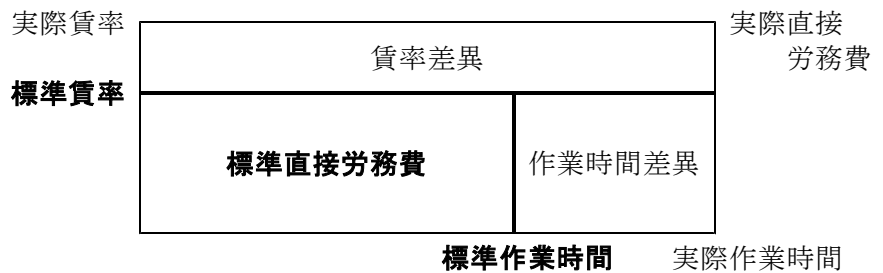
●直接材料費差異



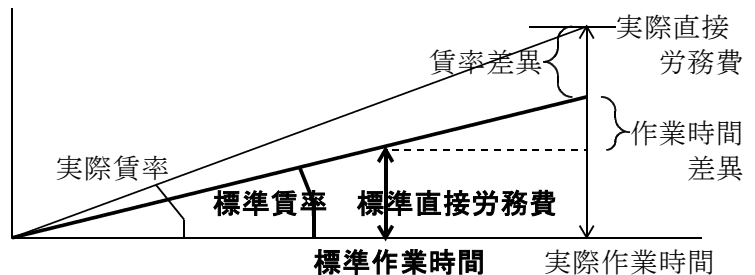
（参考：グラフで表示）



●直接労務費差異



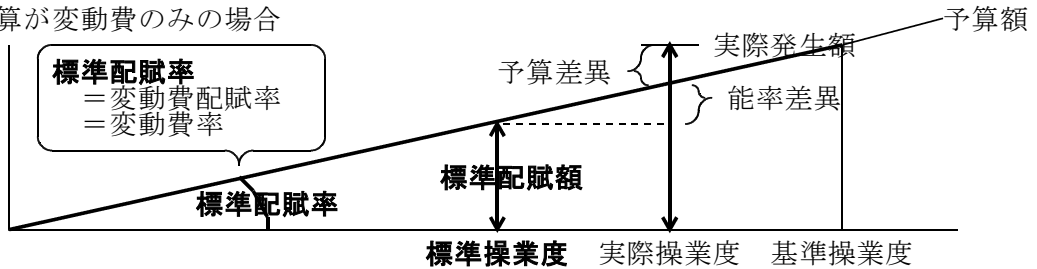
（参考：グラフで表示）



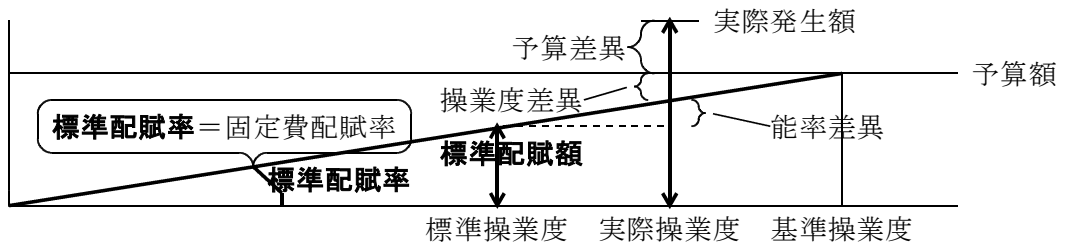
原価差異分析の研究 (2)

製造間接費差異

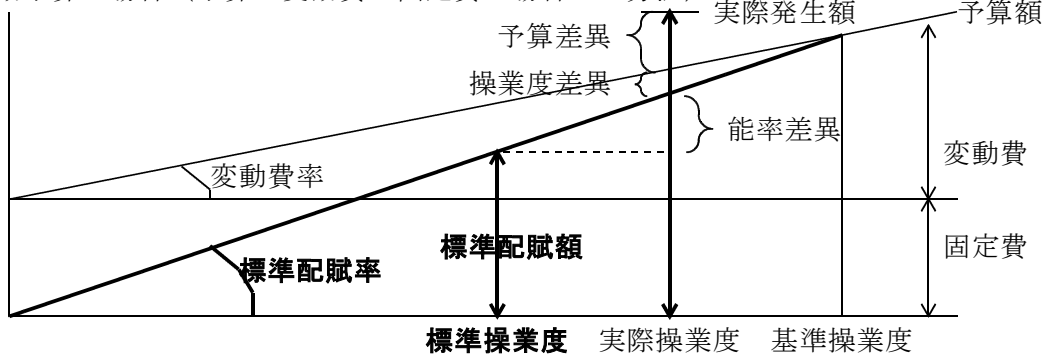
● 予算が変動費のみの場合



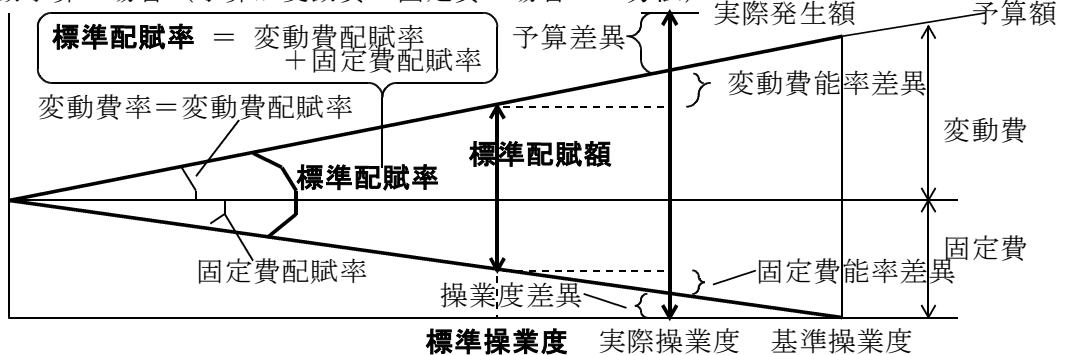
● 固定予算の場合 (予算が固定費のみの場合)



● 変動予算の場合 (予算が変動費+固定費の場合：3分法)



● 変動予算の場合 (予算が変動費+固定費の場合：4分法)



CVP分析 (1)

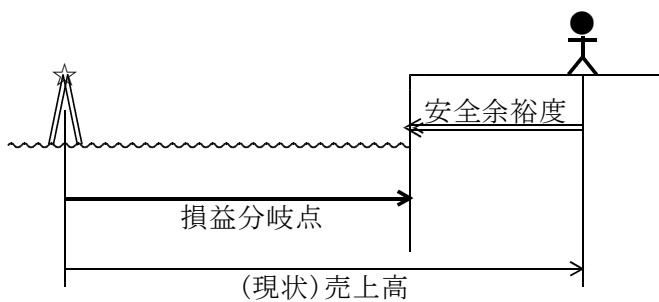
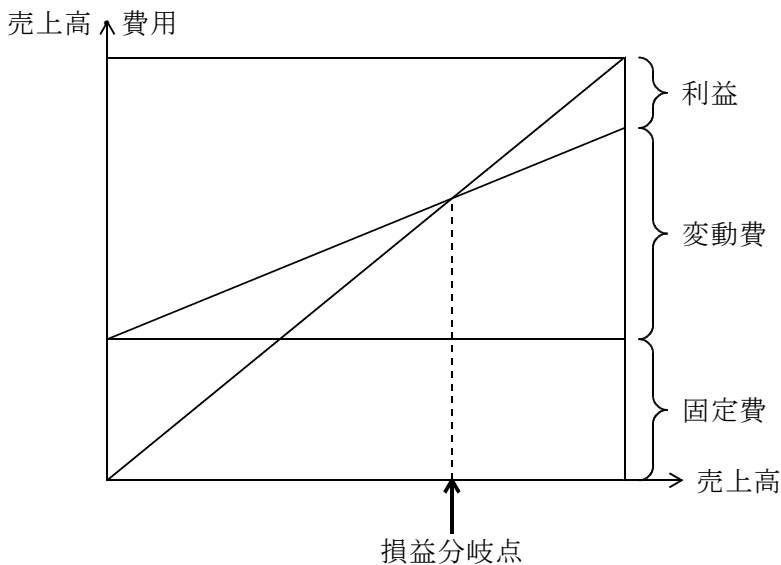
売上高
-) 変動費
貢献利益
-) 固定費
利益

$$\begin{array}{r} \leftarrow x \text{ とおくと} \\ \bigcirc x \\ \hline (1 - \bigcirc) x \\ \square \\ \hline (1 - \bigcirc) x - \square \end{array}$$

$(1 - \bigcirc) = \text{貢献利益率}$

利益 = 0 → 損益分岐点

利益 = 目標利益 → 必要売上高



$$\text{損益分岐点比率} = \frac{\text{損益分岐点}}{\text{売上高}}$$

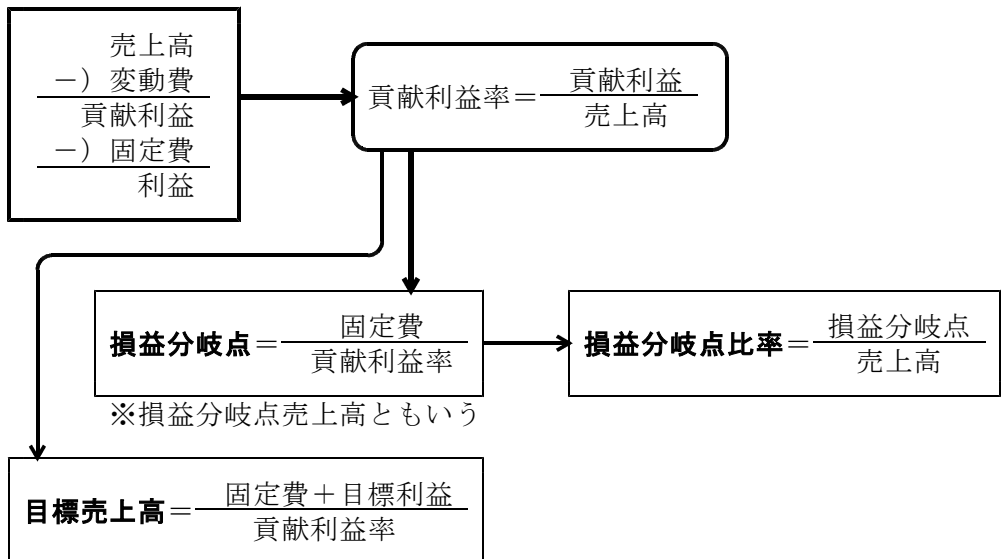
$$\text{安全余裕率} = \frac{\text{安全余裕度}}{\text{売上高}}$$

※損益分岐点売上高比率ともいう

損益分岐点分析の公式

$$\begin{aligned} \text{①損益分岐点 (P)} &= \frac{\text{固定費 (F)}}{1 - \frac{\text{変動費 (V)}}{\text{売上高 (S)}}} \\ \text{②変動比率 (\%)} &= \frac{\text{変動費 (V)}}{\text{売上高 (S)}} \times 100 (\%) \\ \text{③貢献利益率} &= (1 - \text{変動比率}) = \left(1 - \frac{\text{変動費 (V)}}{\text{売上高 (S)}} \right) \\ \text{④損益分岐点比率 (\%)} &= \frac{\text{損益分岐点 (P)}}{\text{売上高 (S)}} \times 100 (\%) \end{aligned}$$

公式の使い方



例 題

下記の資料をもとに、次の各数値を計算せよ。

1. 損益分岐点売上高
 2. 損益分岐点比率
 3. 安全余裕率と安全余裕度
 4. 300万円の利益を得る売上高
 5. 売上高利益率10%となる売上高
- 〔資料〕 売上高：10,000万円
 変動費： 7,000万円
 固定費： 2,400万円

CVP分析 (3)

損益分岐点分析の練習問題 (販売士検定試験問題を修正して転用)

●文章問題

210505 次の文中の〔 〕の部分に、下記の語群のうち最も適当なものを選んで、
答案用紙の所定欄にその番号をマークしなさい。(10点)

小売業が健全に成長していくためには〔ア〕が必要である。アを確保できるよう〔イ〕
ならびに費用を〔ウ〕として定め、経営活動について〔エ〕をたて利益統制することが必
要であり、これを〔オ〕という。

【語 群】

- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 1. 経 常 利 益 | 5. 標 準 | 9. 利 益 管 理 |
| 2. 適 正 利 益 | 6. 予 算 | 10. 実 行 予 算 |
| 3. 経 費 | 7. 基 準 | |
| 4. 売 上 高 | 8. 利 益 計 画 | |

210505 解答： 2 4 6 8 9

200505 次の文中の〔 〕の部分に、下記の語群のうち最も適当なものを選んで、
答案用紙の所定欄にその番号をマークしなさい。(10点)

売上高の増減に比例してかかる費用を〔ア〕といい、売上高の増減に関わりなくかかる
費用を〔イ〕という。売上高からアを引いた金額を〔ウ〕という。損益分岐点売上高はイ
を〔エ〕で除して求める。そして、損益分岐点売上高を売上高で除して〔オ〕を求める。

【語 群】

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1. 変 動 比 率 | 5. 貢 献 利 益 | 9. 売 上 原 価 |
| 2. 変 動 費 | 6. 売 上 総 利 益 | 10. 収 益 性 |
| 3. 固 定 費 | 7. 貢 献 利 益 率 | |
| 4. 固 定 比 率 | 8. 損益分岐点比率 | |

200505 解答： 2 3 5 7 8

330503 次のア～オについて、正しいものには1を、誤っているものには2を、
答案用紙の所定欄にマークしなさい。(10点)

- ア 損益分岐点が高いほど収益構造は相対的に優れている。
イ 貢献利益とは、売上高から固定費を差し引いた収益のことである。
ウ 売上高の増減に関わりなく支出される費用を固定費という。
エ 変動費の大部分を占めるのが不動産賃借料である。

オ 損益分岐点の計算式は、
$$1 - \frac{\text{固定費 (F)}}{\text{売上高 (S)}} \div \frac{\text{変動費 (V)}}{\text{売上高 (S)}}$$
 である。

330503 解答： 2 2 1 2 1

CVP分析 (4)

●損益分岐点売上高の計算

- 250507 下記の資料は、A商店の本年度の損益計算書から作成したものである。
次年度は変動費率は変わらないが、固定費が100万円増加する予定である。
次年度の損益分岐点はいくらかを計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せ
でマークしなさい。(ただし、計算過程で比率に端数が生じたときは
小数点3位未満を切り捨て、答は万円未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資料)

売	上	高	10,000万円
変	動	費	7,000万円
貢	献	利	3,000万円
固	定	費	2,600万円
利		益	400万円

250507 解答： 9,000 (万円)

- 240507 下記の資料は、A商店の本年度の損益計算書から作成したものである。
次年度は固定費が100万円増加し、変動費は2%増加する予定である。
次年度の損益分岐点はいくらかを計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せ
でマークしなさい。(ただし、計算過程で比率に端数が生じたときは
小数点3位未満を切り捨て、答は万円未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資料)

売	上	高	10,000万円
変	動	費	6,863万円
貢	献	利	3,137万円
固	定	費	2,600万円
利		益	537万円

240507 解答： 9,000 (万円)

- 220507 下記の資料は、A商店の本年度の損益計算書から作成したものである。
次年度は固定費が5%増加し、変動費は2%増加する予定である。
次年度の損益分岐点はいくらかを計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せ
でマークしなさい。(ただし、計算過程で比率に端数が生じたときは
小数点3位未満を切り捨て、答は万円未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資料)

売	上	高	9,000万円
変	動	費	6,300万円
貢	献	利	2,700万円
固	定	費	2,400万円
利		益	300万円

220507 解答： 8,811 (万円)

C V P 分析 (5)

230507r 下記の資料は、A社の損益計算書の費用分解したものである。次年度は固定費が100万円増加する予定である。次年度の損益分岐点はいくらか計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(ただし、計算過程で比率に端数が生じたときは小数点3位未満を切り捨て、答は万円未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資料)

売	上	高	9, 800万円
変	動	費	7, 252万円
	〔このうち売上原価 変動経費〕		6, 500万円
			752万円
貢	献	利	2, 548万円
固	定	費	2, 500万円
利		益	48万円

230507r 解答： 10, 000 (万円)

210507r 下記の資料は、A社の損益計算書の費用分解したものである。次年度は固定費は50万円増加し、変動経費は10%増加する予定である。次年度の損益分岐点はいくらか計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(ただし、計算過程で比率に端数が生じたときは小数点3位未満を切り捨て、答は万円未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資料)

売	上	高	8, 600万円
変	動	費	6, 000万円
	〔このうち売上原価 変動経費〕		5, 800万円
			200万円
貢	献	利	2, 600万円
固	定	費	2, 050万円
利		益	550万円

210507r 解答： 7, 000 (万円)

C V P 分析 (6)

●損益分岐点比率の計算

290507r 下記の資料に基づき、損益分岐点比率は何%になるかを計算し、その答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(答えに端数が生じた場合には、1%未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資 料)

売	上	高	25,000万円
変	動	費	13,750万円
貢	献	利	11,250万円
固	定	費	8,775万円
利		益	2,475万円

290507r 解答： 78 (%)

280507 下記の資料はA商店の損益計算書から作成したものである。この場合、損益分岐点比率は何%になるかを計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(ただし、小数点3位未満を切り捨てにて計算を進め、金額は万円未満を四捨五入しなさい。)(20点)

(資 料)

売	上	高	10,000万円
変	動	費	8,000万円
貢	献	利	2,000万円
固	定	費	1,500万円
利		益	500万円

280507 解答： 75 (%)

C V P 分析 (7)

●目標売上高の計算

- 330508 次の資料は、A商店の損益計算書に基づいて作成したものである。次年度の変動費率は変わらないが、固定費は260万円増加する予定である。目標利益は、380万円増やして2,600万円とする。この場合、次年度の目標売上高は何万円になるかを計算し、その答えを答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(20点)

売	上	高	55,500 万円
変	動	費	37,740 万円
貢	献	利	17,760 万円
固	定	費	15,540 万円
利		益	2,220 万円

330508 解答： 57, 500 (万円)

- 320508 次の資料は、A商店の損益計算書に基づいて作成したものである。次年度は、変動費率は変わらないが、固定費は250万円増加する予定である。目標利益は500万円増やして2,000万円とする。この場合、次年度の目標売上高は何万円になるかを計算し、その答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(20点)

(資 料)

売	上	高	37, 500 万円
変	動	費	26, 250 万円
貢	献	利	11, 250 万円
固	定	費	9, 750 万円
利		益	1, 500 万円

320508 解答： 40, 000 (万円)

- 310508 次の資料は、A商店の損益計算書に基づいて作成したものである。次年度は、変動費率は変わらないが、固定費は100万円増加する予定である。目標利益は200万円増やして800万円とする。この場合、次年度の目標売上高は何万円になるかを計算し、その答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。(20点)

(資 料)

売	上	高	15, 000 万円
変	動	費	10, 500 万円
貢	献	利	4, 500 万円
固	定	費	3, 900 万円
利		益	600 万円

310508 解答： 16, 000 (万円)

C V P 分析 (8)

- 300508 次の資料（全て売価で示してある。）は、A商店の損益計算書に基づいて作成したものである。次年度は変動費は変わらないが、固定費が100万円増加する見込みであり、目標利益は1,700万円とする。この場合、次年度の目標売上高は何万円になるかを計算し、その答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。（答えに端数が生じた場合は、万円未満を四捨五入しなさい。）(20点)

(資 料)

売	上	高	10,000万円
変	動	費	6,000万円
貢	献	利	4,000万円
固	定	費	2,500万円
利		益	1,500万円

300508 解答： 10,750 (万円)

- 270507 下記の資料はA商店の損益計算書から作成したものである。次年度は変動費率は変わらないが、固定費が100万円増加する予定である。利益は200万円増やして600万円としたい。次年度の目標売上高はいくらかを計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。（ただし、小数点3位未満を切り捨てにて計算を進め、金額は万円未満を四捨五入しなさい。）(20点)

(資 料)

売	上	高	10,000万円
変	動	費	7,000万円
貢	献	利	3,000万円
固	定	費	2,600万円
利		益	400万円

270507 解答： 11,000 (万円)

- 260506 下記の資料は、A商店の本年度の損益計算書から作成したものである。次年度は変動費率は変わらないが、固定費が100万円増加する予定であり、目標利益は400万円とする。次年度の目標売上高はいくらかを計算し、答を答案用紙の所定欄に右寄せでマークしなさい。（ただし、小数点3位未満を切り捨てにて計算を進め、金額は万円未満を四捨五入しなさい。）(20点)

(資 料)

売	上	高	10,000万円
変	動	費	8,000万円
貢	献	利	2,000万円
固	定	費	1,700万円
利		益	300万円

260506 解答： 11,000 (万円)